

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4392700086		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ喜楽		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高持2133-8		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村報告日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成31年2月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

私たちは、入所者様の事をファミリーさんと呼んでおり「世話をされる人」「世話をする人」との対極の関係におかず、「家族として」の関わり関係を実践しています。ホーム全体が1つの家族であるかのようにファミリーさんに寄り添い、個々のペースに合わせた支援を目指しています。毎日の適度な運動やレクリエーションを行い生活のリズムを築くと共に十分な睡眠をとる事により、ADLの低下の予防や緩和を図り、快適で穏やかな生活を送っていただく事を重要視しています。また季節感を感じて頂けるように、ホーム内に四季折々の飾り付けをしたり、季節に応じて花見やクリスマスパーティーなどの行事をおこなっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平成の元号も今年は改元の年を迎えます。法人が事業を開業されて15年が過ぎようとしています。ホームの成長している現状に、僥越ながら嬉しく思った今回の訪問でした。迎えてくださった管理者が体調の異変を起こされて早退をされた後を、別の職員の方のスムーズな対応で無事訪問調査を終えることが出来ました。日頃からの人材確保、養成のたまものだと思います。介護職の人材確保や継続が社会問題となっている中、介護の質の安定と継続発展に力をそそがれることが伺えます。阿蘇の雄大な景色の中、「最期まで過ごしたい」と望まれる声も多く、安全確認のため離床状況を把握するセンサーが完備された部屋もあり、家族の宿泊にも対応しています。入居者一人ひとりの生活を大切にケアに今後も継続されることに期待しています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づく、事業所での目標を設定し、その目標に沿ったケアを実践している。	理念に基づいた毎年の目標を掲げて、毎月の会議でも振り返りを行っている。理念に沿ったケアが出来るように業務に励んでいる。	毎年の目標の評価について半期毎にでも各職員が良かった点、改善点などを話し合い記録に残すことで、理念の共有が身近な物になることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住民の方と積極的に交流を図り、地域の催し物にも参加し、中高校生の体験実習の受け入れている。	事業所には地域からのボランティアや催し物での来訪もあり、また職員は地域行事にも参加し、交流を図っている。	事業所と地域の付き合いは継続して行われている様子が見えました。今後は利用者と地域の更なる繋がりが作りにも期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催して、地域の方の意見を聞いて理解して頂けるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議では近況報告を行い、施設をより良く運営していくための地域や行政とどんな連携を取って今後進めて行くかを協議している。	地域・行政・家族代表の参加による運営推進会議では、事業所だけでなく法人全体の様子を伝えている。会議を利用し、地域と行政との意見交換や地域への研修会を行う等の取組みも行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町役場担当者の参加があり、事業所の状況を報告し、理解、把握して頂き、ご意見を頂く等協力関係にある。また、緊急対応品備蓄の協力も行っている。	運営推進会議等を利用し事業所状況の報告を行うことにより取組みを伝えており、会議での意見交換も活発に行われている。町との協力体制で緊急対応品の備蓄も継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロを常に念頭に置き、拘束ではなく、何か代替案がないか、常に検討している。全体研修会議において、何が拘束かを学習し、職員全員の認識を同じにしている。	毎月の職員全体会議を利用し、身体拘束の具体例等を取り上げ意見を出し合い検討している。職員間で、皆で意識を持って取組むことを共有し、話し合う機会を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者研修の中で防止の実践を勉強し、社内でも勉強会を開催し、意識の向上に努め、全職員が常に念頭に置き業務に付く様指導している。		

あそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されている入居者様がいらっしゃいます。日頃から入居者様と後見人様、双方の関係が維持出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族に見学に来て頂き、説明を行っている。契約時には、十分に説明し、不安や疑問、意向を聞きながら、納得を得ている。又、制度改正時は、その都度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定例の家族会を開催し、面会時には家族からの要望や意見を伺い、介護に反映出来る様に努力している。毎月、社内報を発行し、社内の行事や利用者様の近況を伝えられる様にしている。	家族等の面会時には職員からも声を掛け、意見・要望を確認している。家族会や日常的な家族への報告等で、家族と直接話す機会を持ち、意見を出しやすい環境作りを行っている。代表者も家族との関わりを多く持ち、運営や入居者のケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や、月1回のモニタリングにも管理者が参加して、職員からの要望や意見を聞き、運営に反映させている。	毎月の会議や法人の全体会議において運営について話し合う機会を持っている。管理者は職員と業務を共にしており、また会議では代表者への意見・提案を出しあっており、検討され必要に応じ運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議やモニタリング会議を通じ、報告、連絡、相談の徹底を図っている。又、前年度より個人の努力を評価し、それを給与に反映する新人事制度を導入し、仕事へのやりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等に参加する機会を設け、知識を修得させ、全体会議にて研修参加の報告として発表する場を作り、全体のレベルアップを図っている。また、更なる向上を目指し、上の資格取得に積極的に挑戦出来るようにバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会を通じて、同業者との交流はあるが、近隣の同業者との交流があまりなく、今後交流を通じて、学び取り入れる事項は、積極的に勉強し、当施設のスキルを向上させていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何でも安心して話せる環境を整える事で、困っている事や不安な事、要望などを聞き出せる関係性の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が何でも話せるような雰囲気を作り、意見や要望等があれば耳を傾け速やかに対応することで、安心して預けられる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今困っている事や、何を求めているのかを考え判断し、その人らしく生活出来るように必要なサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お世話をするという一方的な気持ちではなく、共に何かをするという気持ちで日々一緒に生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の近況報告や状態変化時の速やかな連絡や対応を行い、家族の方と職員が共に協力しながら支える事ができる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の祭りや老人会などの行事、近隣商店への買い物等により、地元の方々との繋がりがりや関わりを保てるように努めている。	地域の祭りや催し物等、入居者にも馴染みの生活への関わりを継続している。家族・知人の継続した訪問も続いており、馴染みの関係の継続を支援している。	入居者の状況もあり、近年気軽な外出等が減って来ているようです。近隣店舗等、地域資源も活用した取組みにも期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や個性を把握したうえで相性等を考え孤立化するような事がなく穏やかな生活が送れるような支援に努めている。		

あそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気兼ねなく新にサービスを依頼出来るような体制を作っており、相談しやすい関係を保つように心がけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話を大切に利用者さんの意向に寄り添えるように努めている。また意向の実現が困難な時は、出来ない理由も付けて納得できるよう説明を行い、職員と共に代替りの案を話し合い本人主体で考慮出来るよう支援している。	入居者は居室だけでなくリビングで過ごす時間も多く、職員との会話や関わりもよく見られ、寄り添いの中で思いや意向の把握を行っている。家族から得た意見・意向も職員で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方や本人さんからこれまでの生活歴や環境を聞き取り、また関係機関との連携を図り可能な限りの情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のふれあいの中で、些細な状態の変化を見逃さないよう一人ひとりの状態の把握に努め、職員間で情報共有しケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで意見交換をおこない、利用者さんがどの様に日常生活を送れるかを第一に介護記録や医療関係者との話し合った内容を考慮しながら介護計画を作成している。また必要時には随時計画内容の見直し変更も行っている。	毎月のモニタリングは、入居者の担当者により全職員に状況を説明し意見を述べ合う。介護計画は基本的に年1回の見直しを行うが、状況により随時見直し変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や個別記録をもとに、毎月のケア会議で見直しが必要であれば、変更し実践にも活かしている。また些細な事も気になることは記録し、必要事項は申し送りノートに記載し朝礼で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りのサービスを提供し多機能化できるように各種の介護・医療機関や行政機関と連携を図ると共に、本人さんや家族のニーズの把握に努めている。		

あそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、中高生の体験学習を受け入れおり、また地域のボランティアの方が訪問され、レクリエーションを行われるなど地域の方々と触れ合い、楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を重視しており、本人さんや家族の方が希望する医療機関を利用できるよう配慮している。3医院からの定期的な往診があり、利用さんの状態を継続して診られる環境を整えている。必要時には通院も行っている。	入居前からの医療機関を継続して受診でき、現在は協力医3医院から往診を受けている。専門医等、通院が必要な場合は職員が通院介助を行っている。現在、医療機関へ相談し、出来るだけ薬を減らすよう取り組んでいるところである。	定期的なかかりつけ医・歯科医等の往診により入居者の状況は医療機関でも継続して状況把握が出来ているようですが、家族の関わり支援・情報共有のためにも協力依頼の継続に期待します。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の関係は良好で常にコンタクトを取り合いながら介護上の気付きや変化を捉え、医学的判断や処置が必要だと思われる場合は相談・報告を行い迅速に適切な処置や受診が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室の担当者の方と連携を図り入院中の利用者さんの状態把握に努めており、退院時も情報交換をこまめに行い速やかに受け入れる体制を整え信頼関係を築けるよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や週末期のあり方について、利用者さんや家族の方の希望があれば、看取りまでの対応を行なっている。かかりつけ医の医師・看護師・家族・本人・事業所で相談しながら協力と連携を図り、関係者が一丸となって支援出来るよう取り組んでいる。	開所以来、看取りまでの対応を行っており、入居者・家族の希望も多く、家族の協力も大きい。その時を迎えた際には医療機関・家族との話し合いを重ね、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の全体研修会議の中で看護師による研修や指導のもと全職員が対応できるよう実際の事例を用いての検討も行っている。またマニュアル作成し緊急時にも備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練の実施を行っており、防災設備と使用方法の説明や避難の手順などの講習を行い全職員が身に付く様体制を整えている。地震や水害等の避難訓練や講習については、まだ出来ていない為、今後の課題である。	定期的に行う消防訓練は隣接する法人施設全体で、入居者も参加している。災害時の訓練にまでは至っていないが、職員の緊急連絡体制や出勤基準・体制を整えている。	

あそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対し、馴れ馴れしい言葉で会話をしている時がある為、全職員が利用者様にそれぞれの尊厳を考慮した言葉掛けを、常に意識して対応するように、職員間で注意し合い改善していくよう努力している。	入居者の一人ひとりの尊重は法人の介護の基本の一つであり、声掛けや対応については職員間でも意識・注意しあう体制をとっている。職員には「居室は入居者の自宅である」の考えが徹底しており、プライバシーへも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を引き出せるような環境造りや傾聴の姿勢を大切にしている。自ら思いを伝えたり表現出来ない利用者様に対しては、表情や動作を観察し汲み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれの趣味・嗜好、体調を把握し、各自のペースに合わせた日々の暮らしが出来よう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時には理美容室の利用を支援している。日々の整容に注意をはらい、常に身だしなみを整えていられるよう声掛けや介助、又は希望の整容に対応出来るよう努めている。自己にて整容が出来ない利用者様には職員により季節や容姿を考慮し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	加齢に伴い、準備や片付けを一緒に行う事が難しくなっている。食事前や食事中に食事内容を一緒に確認したり、嗜好を聞き出す等、会話をしながら食事を楽しめるよう支援している。	関連施設で基本とされている献立により、入居者の状態で刻み・ミキサー食等の対応をしている。年々準備や片付け等への関わりが難しくなっているのが課題であるが、職員も同じ食事を共にするため、入居者の好みや食事形態の把握もを行っている。	入居者の状況により、現在、食事に対する関りが難しい状況が窺えましたが、事業所の考えである「生きがいをめざした自立」が少しでも継続される支援に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量を記録を行い把握に努めている。また、1人ひとりの身体状態、摂取量、嚥下能力、嗜好を考慮した食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや見守り、介助によって口腔ケアを行っている。歯科医師との連携を図り、必要の際には指示に従い、口腔ケアの介助を行っている。		

あそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に、排泄パターンや排泄状況を把握し、声掛けやトイレ介助を行っている。	一人ひとりの記録やしぐさから声掛けを行っている。できるだけ自立に向けた支援を継続しているが、それぞれの状況に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳提供、下剤の調整、腹部マッサージ等を行っている。また、水分摂取量の確認や水分摂取の強化や、運動の声掛けを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分に合わせて行っている。入浴を拒んだり曜日変更希望の際には職員間で検討し、再度声掛けや説明などの支援を行っている。	身体状況により週2～3回の入浴を基本としている。機械浴が設置されていることから、職員の負担軽減にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動状況、身体状況を申し送りや情報交換を行い、夜間の巡回時の声掛けや、空調の調整により環境を整えている。また、不安感がある際には傾聴し、安心して睡眠が取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に薬情報を綴じチェックしている。また処方内容の変更時には、申し送りや連絡ノートその他、業務日誌や介護記録へ記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様との会話や、御家族からの情報により嗜好品を把握し、1人ひとりが好きな物を食べたり、好きな事が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	春から秋にかけて、月1回のレクリエーションや、季節を感じられるよう利用者様全員で外出を行い、花見やドライブ、果物狩り等の活動を行っている。	日々の行動計画が予定されており、散歩も取り入れられているが、気温や状況に応じて行われている。現在、入居者全体の身体状況により気軽な外出は難しい環境であるが、近隣店舗への買い物等、希望により都度職員と共に外出する体制をとっている。	家族協力での外出も見られ、日々の生活で散歩等も取り入れられています。季節によっては苑内で過ごす時間も多いため、外気を感じる工夫にも期待します。

あそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じて、規定額内でのお金を所持して頂いている。希望時には、買い物代行や職員同行にて買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には施設の電話を使用して頂いている。また、手紙等の投函を代行したり、家族や知人の方との連携が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの季節に応じた創作品や花、などを展示する事で、季節を感じて頂けるよう努めている。また、室内温度や照明の調整に注意をはらい、居心地良く過ごして頂けるよう支援している。	事業所内は明るく温かい環境で、温湿度の管理を行っている。季節を感じる阿蘇の山々を望むことができる環境の中、廊下のソファやリビングでは思い思いに過ごすスペースが備えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂でのテレビ鑑賞や談話など、自由にいつでも利用できるよう、テーブルや椅子の配置、ソファの設置など思い思いの時間を過ごして頂けるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた物や、好きな物を持ち込んで頂き、利用者様にとって居心地良く過ごせるよう支援している。	収納も備えられた居室には家族写真等が飾られ、好みの品物が置かれている。入居者には手芸や切り絵等趣味を続いている方もおられ、心地よく過ごすことができる空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、車椅子や歩行器使用の利用者様でも、安全に移動出来るような広さをとってある。		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあそ喜楽

作成日 平成 31年 3月26日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	年間目標の達成度、問題点の評価を年度末にしか行っていない。	半期に一度、年度目標の評価を行う。	新人事制度導入により、4月より施行予定	1ヶ月
2	2	利用者個人、個人と地域とのつながれる機会をあまりない。	絵画や詩歌等、個人の趣味を生かして地域イベントへの参加の機会を増やす。	高森町や、南阿蘇で、参加できるイベントを検討し、積極的に参加する。	6ヶ月
3	30	かかりつけ医の往診や、特別な受診の際に、家族への立ち合いを要請する努力が足りない。	現在、受診の際には家族への連絡をしているが、今後、往診日のお知らせや、受診前後の家族への連絡をもっと密にしていく	御家族へ予定表に従って連絡し、家族に参加を促す。	3ヶ月
4	20	介護レベルが重度の利用者にかかりきりになる為、買い物や散歩に割く時間的余裕がない。	他の事業所とも連携して、外出する機会をもっと増やしていく。	外出日を決め、職員を配置していく。	2ヶ月
5	49	介護レベルが重度の利用者に職員の手も気持ちも持って行かれ、外出の計画も出来ないでいた。	温かいうちは、月1回は外出の機会を設ける	月末、モニタリングなどの機会を利用して、来月の外出予定を計画する。	1ヶ月
6	40	食事を楽しんで摂るための工夫が不足している	食事時に流す音楽や、テーブル上の装飾などにもっと季節を感じさせるような工夫をする	音楽を集める人、装飾を考える人、実際に作る人などの担当の振り分けをする。	2ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

